

第3章

介護支援ボランティアになる決意

注)「ボランティアのためのケアマニュアル」は、米国で作成された冊子「C
ARING TO HELP OTHERS」を一部割愛し、日本語に直訳し
たものを、専門家の先生方にご監修いただいたものです。環境、制度、法律な
ど日本のものと異なる内容も含まれておりますので、ご注意ください。ケアの
方法を実際に行われる場合には、必ず担当医もしくは担当の医療従事者の方
にご相談ください。

第3章の概要

第3章の目的は、次の3点です。1) 主介護者と要介護者は、高齢化に伴う慢性疾患や障害を受け入れながら日々の試練に対処しています。こうした主介護者と要介護者を援助できる熟練したボランティアに対し、ますます高まる地域のニーズに対応すること。2) 各組織が、ボランティアを募集、審査、訓練、サポートする効果的システムを備えるために取り組まなければならない責任と課題について、方向性と指導を提供すること。3) 介護支援ボランティアになる決意を固める前に考慮しなければならない主な要素と課題を提供すること。

本章では最初に、もっと多くの介護支援ボランティアが必要な実情を裏付ける統計を紹介しています。次に、効果的なボランティア・プログラムを用意するために、各組織が取り組まなければならない責任と課題について詳述しています。

本章ではまた、人はどのような動機で介護支援ボランティアになるのか、ボランティアとして関与する決意をする前にどのような問題を考慮しなければならないのか、また有能なボランティアの特徴と、介護支援ボランティアに影響を及ぼす主な心理的・社会的問題などボランティア活動の動向を含め、専門職員や訓練者が知っておくべき貴重な情報を提供しています。

さらに本章では、組織がボランティアの募集と審査を実施する際に考慮しなければならない法的問題のみならず、ボランティアの指導と養成講座について考慮すべき重要な事柄についても扱っています。

以下の資料についても本章に掲載しました。

- ・介護支援ボランティアの一般的職務内容説明書
- ・介護支援ボランティアの権利一覧表
- ・介護支援ボランティアに対するアサーティブネス（自己主張）の助言

より多くの介護支援ボランティアが必要な実情

概算によると、2050年には5人のうち少なくとも1人は65歳以上になります。つまりアメリカ全人口の20%以上が高齢者になるというわけです。事実、全人口区分の中でも85歳以上の人口が最も急速に増えているのです。

まずまずの健康を維持しながら人生のこの段階に到達した人たちにとっては、これは祝福すべきことですが、重篤な疾患を抱える人にとっては大変な苦難です。またその人よりは健康な配偶者や、主介護者になる可能性が高い成人した子どもにとっても、重荷になる場合があります。

1945年から1965年の間に生まれた「ベビーブーム世代」の人は、おそらく自分の子どもの世話をする期間よりも親の面倒を見る期間の方が長くなるでしょう。この「ベビーブーム世代」の子どもの世代になると、介護者としての期間はもっと長くなります。

急速な変化を遂げつつあるアメリカの人口統計で明らかな通り、増大する高齢者人口のヘルスケアに対して、これまで経験したこともないほどのニーズが生まれるでしょう。このため、わが国の保健医療制度、政府プログラム、地域ベースのサービス、そしてとりわけ家族にとって大きな試練となるでしょう。

アメリカ国勢調査局の人口統計学者、グレゴリー・スペンサー博士によると、「ベビーブーム世代」は今後50年間ほど「急増する100歳以上人口」を構成すると予測されています。2025年には、100歳以上の人々がほぼ50万人、そして2050年には約130万人にも上るでしょう。

医療財政局の1998年の調査では、アメリカの医療支出は急速に増え始めており、2007年には現在の2倍、2兆1000億円以上になる見込みだと報告されています。にもかかわらず、ナーシングホームや在宅ケアに対する支出は、政府償還の削減のため伸びが抑えられていくよう計画されています。

現在のところは、国として辛うじてヘルスケアと介護者に対するニーズを満たしているとしても、私たちの子どもや孫は、今後ますます困難になる責任をどのように処理していけば良いのでしょうか？

こうした重荷を子や孫だけで引き受けることはできませんし、またそうすべきでもないのは明らかです。この膨大なニーズに対して、地域団体はプログラムを設定してボランティアの募集、審査、訓練、サポートを行い、この問題の重要な解決策の一環として必要な多数のボランティアを結集する準備を進めています。

最もケアが必要な人たちは高齢者であるにもかかわらず、最もケアを受けていないのが高齢者だということが分かりました。家族にさえ、忘れられていることが多いのです。これはとても悲しいことです。

Blondell Washington
ワシントンDC、
家族生活地域サービス

数多くの若い人たちが積極的に介護支援ボランティアになっており、また今後もなるでしょうが、ますますの健康と生活の質を維持している高齢者も、介護支援ボランティアとして養成を受けるに適した候補者なのです。

ますます増大する健康で長生きの高齢者は、地域の慢性疾患の人、その主介護者や家族が日々のニーズを満たすことができるよう援助する適格なボランティアとして、大いに貢献することでしょう。

地域団体は、援助の必要な人のために喜んで自分の時間を割く人、また割くことができる人なら、あらゆる年齢層の人たちを歓迎しています。ただし、すべてのボランティアが生まれつき同じ条件を備えているわけではありません。

地域団体の責任と課題

ボランティア活動に関して言えば、各地域団体の責任と課題は以下のとおりです。

- ・ ボランティアに必要なものは何かを判断します。つまり技能、社交性、能力、態度、限界、熱意の程度、およびどの程度時間を割けるか、などです。こうした詳細事項を職務内容説明書とボランティア募集要綱に記載します。
- ・ 次のような目的でボランティアを継続的に募集してください。1) 地域のサービスと連携に対する職員の任務をサポートし拡大する組織のニーズを満たすため、2) 事務、寄付金集め、委員会指導部など、組織の機能上のニーズを満たすため。
- ・ ボランティアと面接し、ボランティアにふさわしくない、あるいはボランティアに任務を割り当てた組織が責任問題を問われることになるような健康問題、性格的問題、あるいは犯罪歴がないか、履歴書の身元保証人を調査し確認します。
- ・ 各ボランティアの体力、限界、特殊技能、関心事、熱意の程度、ボランティアの任務に当てられる時間などを判断します。
- ・ 各ボランティアの動機と、ボランティア体験によって何を得たいと望んでいるのか判断します。
- ・ 各ボランティアに割り当てられた任務を明確に理解し、その任務をボランティアに伝えます。
- ・ 各ボランティアに適した任務を割り当てるよう、最大限の努力を払ってください。
- ・ ボランティアとしての任務が成功するために必要な技能、自覚、理解、手段が備わるように、適格な訓練者がボランティアに入職教育と訓練を与えます。
- ・ さまざまな宗教、人種、文化的背景を持った人を積極的に採用するよう配慮します。
- ・ ボランティアの任務中、継続して監督、サポート、指導を与え、ボランティアがさまざまな問題に対処し、安定した仕事と満足度が維持できるよう援助します。
- ・ ボランティアが組織や地域のために提供した貴重な仕事や貢献を認め、その

労をねぎらってください。

どのような動機で介護支援ボランティアになるのか？

ボランティアの大半は、特定の目的と組織に対する責任、そして人を助けたいという心からの願いが動機となっています。多くの場合、ボランティアは非常にやる気のある人たちですから、そのエネルギーと積極的な態度は、測りしれないほど貴重な財産なのです¹。

- ・介護支援ボランティアは、主としてその信念と人生経験に基づいて活動している。信念を表現する具体的な方法がボランティア活動であると考えている場合もある。
- ・地域、友人、親族、あるいは自分自身にニーズがあることが分かるので介護支援ボランティアになり、そのニーズを満たすために地域団体につながっている。
- ・ボランティアは、誰もができるだけ長く自宅で自立していられるよう援助したいと考えていることが多い。それが尊厳を保ち守ることであり、かつ個人に対する敬意であると考えている。
- ・介護支援ボランティアとして活動することは、新しい技能を開発し、知らない人に出会い、自身の問題や喪失感を忘れる機会を提供する。
- ・回復または死去した家族の主介護者を経験した後、その経験の利点を生かすために他の人の介護支援ボランティアになり、介護を受ける相手と有意義な関係を持ち続ける場合がある²。

¹ Robert W. McMenamin (司法省)「ボランティアと法律」、オレゴン州ビーヴァートン、Jomac Publishing Inc.、151頁より許可を得て改作

² 全米異宗派間介護ボランティア連盟インク「プログラム管理マニュアル」、ニューヨーク、1997年、43-44頁より許可を得て改作

ボランティア活動の動向

ボランティアの大半は仕事を持っているので、色々と時間をとられて忙しくなっている。
 短期間（一時的に）ボランティアをする機会を求めているボランティアが増えている。
 ボランティアのほぼ全員が融通性を必要としており、決まった時間を確約することが難しくなっている。
 ボランティアは迅速に行動したいと考えているので、地域が管理する比較的小規模の組織を好む。
 （特に「ベビーブーム世代」の）ボランティアは、やりがいのある興味深い任務を期待している。
 ボランティアは社会の広範囲な層（増大する専門職、若者、無職の人たち、および多様な人種）を代表する人たちである。
 最近のボランティアは、敬意、尊厳、理解を持ちプロとして扱ってもらうことを期待している。
 70才以上の高齢者数が増大しており、この年齢層の人たちがこれまで以上にボランティア活動に従事している。この年齢層は高齢者のニーズの変更や増大に対応することができる。
 家族ボランティア、グループボランティアの人気が高くなっている。
 単に組織のためのみでなく、目的を持って活動することに関心を抱いている。
 地域の非営利組織として利用できる専門的スキルを持つ人たちが、これまでよりもかなり増えている。
 ボランティアになる動機はさまざまである。

Betty B. Stallings 「ボランティアの職務を企画する；より有能な技能の養成」、1996年、H-3頁より許可を得て改作

介護支援ボランティアになる：決意の重要性

介護支援ボランティアとしての個人は、要介護高齢者、主介護者、およびその家族に対する援助システムの一部になります。

- ・ ボランティアは、要介護高齢者と主介護者を援助すると決意することにより、高齢者の住み慣れた自宅で家族がケアをすることができるよう、または家族が施設へ暖かい訪問をすることができるよう援助します。
- ・ 介護支援ボランティアは、要介護高齢者と主介護者を助けると決意することにより、他人の人生的一幕である喜びや悲しみを共に感じることもよくあります³。

³ 全米異宗派間介護ボランティア連盟インク「ボランティア管理ガイド」、ニューヨーク、1977年、付録C5、2頁より許可を得て改作